

留学 と 英語

2016年冬季海外大学院留学説明会@東京大学

パネルセッション トピック3

進行：野田 俊也 (Stanford Econ Ph.D. candidate)

出願準備

- TOEFL, IELTS, GRE 等の**共通試験**
- Statement of Purpose, Writing Sample などの**提出書類**
- (分野によっては) 研究室のボスとの Skype or 直接の**面接試験**

登壇者の TOEFL & GRE

	青木	鵜飼	児玉	市川	野田
TOEFL	98	104	106	100	104
GRE V		155	158	150	148
GRE AW		4.0	5.0	4.0	3.5

- GRE は TOEFL より**かなり**難しい
- 基本は TOEFL が先、GRE が後
- 対策と試行回数で最終得点は変わる

TOEFL (タイミング)

- 最初にして最低限の英語力の関門
 - 主に足切りに使われる。
 - 分野にかかわらず、**早い段階での準備**を推奨！（国内奨学金のため）
 - 例：吉田育英会 夏×切 88点 or 100点

TOEFL (目標点)

- 大学・分野で異なるので情報収集必須！
 - CS系: 100点目安 UC系低い・Ivy高い
cf. Berkeley 90, Stanford・MIT 100, Brown 115
 - 航空宇宙: Illinois が 103点を要求
 - 歴史学: 100点以上明記が基本
 - 化学: 100点以上が目安
 - 経済学: 100点以上が目安 (やや緩い?)
 - Chicago は 各26点以上がマスト

TOEFL (RL 対策)

- 語彙は大事 (分野外の単語を覚えよう)
- **Reading:** 自力で満点近く取りたい
- **Listening:** シャドウイング (鵜飼)
- この2つは対策で劇的に伸びることはない。

TOEFL (SW 対策)

▪ Speaking:

- 録音 → 確認 (市川・野田)
- テンプレ (青木・野田)

▪ Writing:

- テンプレ (青木・鵜飼・市川・野田)
- 分量 (鵜飼・野田)

GRE Verbal/AW

- 見るという意見・見ないという意見があり、重要度は見方が割れる。
 - 経済学の場合：理論系の教授は軽視・応用系の教授は重視
- **日本人の高得点者は非常に珍しい。**
- 精華大・北京大・香港系の候補はGRE Verbalでも90%台を取る（イエール大学経済学部・伊神満先生のWebサイト）

テスト以外の英語力チェック

- テストの点は**対策で容易に水増し可能!**
 - TOEFL・GREについては日本人の対策すらまだまだ甘い
- 「メールのやりとりを通じて英語力を確認する」 (レイジアナ州立大学社会学部・賀茂美則教授)
- 見られるのは SOP や論文だけではない

面接対策

- 青木：「入試面接(Skype)・学会で指導教官候補の先生と会う際には、必ず事前にYoutubeなどで講演動画を見て**訛りの強さ・英語の特徴を把握**して、更に想定Q&A集を作っていた。」
- みんなが“スタンダードな”英語を話すのはリスニング教材だけ！！

対策以外の英語準備

- 「とりあえず毎日英語を聞いていた」 (青木)
- ESS スピーチセクションで練習 (鵜飼)
- Speaking強化のための英会話
 - Berlitz (市川・野田) 文学部 (野田)
- 対策はあまりせず、SOP・WSへ注力 (児玉)
- 海外ドラマ・スポーツ観戦・映画などは留学後の話題づくりにもよいかも？

受かったら終わりではない

- 入学後の英語試験・補習（CMU, MIT, Stanford）
- TA試験・RA獲得のための交渉等
- 現地での生活（トラブルへの対処）
- **米英で就職したければ、英語のハードルは当然入学時より高い。**

終わりに

- 出願準備段階で、対策をしっかりとしてもなお英語がボトルネックになったケースはおそらくあまりない。
- 留学して、**最低限の研究生活**を送るのに必要な英語力は**意外と低い**。
- しかし生活の利便性・将来の選択肢に**まったくハンデがない水準はかなり高い**。
オーバーキルは滅多に起こらない。
→ やるだけ役に立つから**英語やろう**。